

自社の長期的・持続的成長のための 自社保有技術の棚卸と未来志向でのコア技術の設定

※職場や自宅のPCでオンライン会議アプリZoomを使って受講できます。受講方法などは申込後にご連絡いたします。

◆日時:2025年2月28日(金) 10:30~16:30

◆形式:ZoomによるWEB配信

◆聴講料:1名につき55,000円(税込、資料付)

※会員登録(無料)をさせていただいた方には下記の割引・特典を適用します。

・1名でお申込みされた場合、1名につき44,000円(税込)

・2名同時でお申し込みされた場合、2人目は無料(2名で55,000円(税込))

セミナーお申込みFAX

03-5857-4812

※お申込み確認後は弊社よりご連絡いたします。

☆HPはこちらから ⇒ <https://www.rdsc.co.jp/seminar/2502102>

●講師:ベクター・コンサルティング(株) 代表取締役 浪江 一公 氏 ※元 日本工業大学大学院技術経営研究科(MOT) 教授

【受講対象】

研究開発部門、研究開発企画、技術企画、経営企画などの部門の方々で、
-自社の技術を活用し新製品、新事業を創出する活動に従事されている方
-自社の長期的な事業展開の拠り所とすべきコア技術を
明確化する作業に従事されている方
-適正な技術戦略を構築したい方、など

【講座の趣旨】

本セミナーにおいては、コア技術を明確に定義し、その定義に基づきコア技術を設定する方法論、すなわちどのような評価基準でコア技術を設定するのか、そしてどのようなプロセスでコア技術の設定を行うかを学んでいただきます。

前者については、コア技術を長期的かつ継続的に自社の収益拡大に直接的に寄与する視点から、コア技術の選定軸を提示し、コア技術を定義します。

後者においては、自社の現状の保有技術の棚卸を最初に行います。技術の棚卸とは、自社が全社として保有する技術はどのようなものなのか、それは自社の他社との相対的な技術水準を含め、どのような特徴を持つのかにより、自社の保有技術を俯瞰的に捉えることを目的として進めるものです。また最後には どうコア技術を継続的に強化していくのかについても、議論をします。

【プログラム】

1. はじめに

(1)コア技術設定の難しさ (2)コア技術は未来志向で設定する
(3)コア技術設定上の重要な注意点

2. コア技術とは:コア技術の適用対象領域

(1)既存技術領域の活用と強化 (2)新市場への既存技術領域の展開と強化
(3)既存技術(領域)への代替技術の反映
(4)既存市場での価値づくりのための新技術領域の追加
(5)新市場への展開のための新技術領域の追加

3. コア技術の重要な7つの意味

(1)将来に向けての企業の屋台骨としてのコア技術
(2)「範囲の経済性」実現手段としてのコア技術
(3)事業戦略のドライバーとしてのコア技術
(4)『価値づくり』実現手段としてのコア技術
(5)オープンイノベーションのプラットフォームとしてのコア技術
(6)全社で継続的強化・共有の対象としてのコア技術
(7)トップマネジメントによる技術マネジメントのツールとしてのコア技術

4. コア技術設定の企業事例

(1)コア技術設定の企業事例 - 3M/クレハ/富士フィルム
(2)基盤技術とは(富士フィルムの例) (3)コア技術のその他の定義

5. コア技術の選定軸

(1)コア技術の選定軸 (2)コア技術の選定軸の背景:収益実現の3要素
(3)「提供顧客価値の大きさ」について
(4)「適用範囲の広さ」について
(5)「自社の独自性追求」軸:「技術成熟度」×「自社技術水準」

6. コア技術設定の全体プロセスと注意点

(1)コア技術設定の全体プロセス (2)注意点

7. ステップ1:技術棚卸の大分類の設定

(1)技術の棚卸のための大分類の設定の目的
(2)技術の棚卸の大分類の設定事例
(3)「技術は機能で表現すべき」についての考え方

8. ステップ2:技術棚卸素案の設定

(1)技術の棚卸設定のワークシート
(2)ステップ2はあくまで引き台

9. ステップ3:各部門でのマクロ環境分析と技術棚卸(素案の追加・修正と評価)

(1)ステップ3を構成する3つのタスク (2)タスク1:マクロ環境分析
(3)タスク2:棚卸技術の追加・修正 (4)タスク3:棚卸技術の評価・修正

10. ステップ4:各部門での追加・評価した技術の統合と

全社視点でのマクロ環境分析の補強

(1)全社の評価が一覧できる表の作成
(2)各部門が行ったマクロ環境分析の統合と全社視点での補強

11. ステップ5:ステップ4に基づくコア技術の設定

(1)コア技術設定の2つのタスク
(2)タスク1:グループ化によるコア技術候補の設定
(3)タスク2:コア技術候補の評価 (4)ステップ5の実施体制

12. コア技術を利用した製品アイデア発想法(参考)

13. コア技術の強化法

(1)コア技術強化のための発信・取込・活動・共有化モデル: BIRDSモデル
(2)コア技術の情報発信<発信> - 富士フィルム/3Mの例
(3)オープンイノベーションの実現<取込> - オリンパス/GEの例
(4)積極的なコア技術利用製品・事業の展開<活動>
(5)組織横断的共有・強化活動<共有化> - 村田製作所/東レの例

14. 最後に

【質疑応答】

『技術の棚卸・コア技術設定』WEBセミナー申込書

FAX番号:03-5857-4812

会社・大学			
住所	〒		
電話番号		FAX	

お名前	所属・役職	E-Mail
①		
②		

会員登録(無料) ※案内方法を選択してください。複数選択可。

Eメール 郵送

● セミナーの受講申込みについて ●

左記の欄に必要な事項をご明記の上、FAXでご送付ください。弊社で確認後、必ず受領のご連絡をいたしまして、請求書などをお送りいたします。

セミナーお申込み後のキャンセルは基本的にお受けしておりませんので、ご都合により出席できなくなった場合は代理の方がご出席ください。

お申込み・振込に関する詳細はHPをご覧ください。
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/entry>

個人情報保護方針の詳細はHPをご覧ください。
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/privacy>